



～ゆっくり保養 ほっこり交流 じっくり語ろう～

今年も ほんとうにおかげさまでした

実行委員長・三次組組長 小武 正教

8月7日～10日の日程で開催させて頂きました第2回「保養と交流のつどい」を、無事に終わらせていただくことができました。これもひとえに実行委員会に加わり、「保養と交流のつどい」の成功のためご尽力いただいた皆さまのお力のたまものと感謝いたしております。

実行委員会には、三次組寺院住職・寺族婦人会・若手寺族会・三次組総代連絡協議会・三次組仏教婦人会連合会・三次組仏教壮年会連盟・震災支援ネットびんご・備後教区少年連盟・三次商工会議所青年部・あすなろ塾、さらに開催趣旨に賛同する有志の方など、多くの皆さまにご参加頂きました。中でも、会場となりました作木町の三ヶ寺（東光坊、浄円寺、蓮光寺）の皆さまには、とりわけお世話になりましたことを深くお礼申し上げます。

今年は福島県飯館村より9名、その他の福島県より5名、さらには東北・関東より広島に避難している方4名の計18名（大人11名、子ども7名）を迎えての「保養と交流のつどい」でした。昨年の経験を踏まえて、「ゆっくり保養 ほっこり交流 じっくり語ろう」を願いとし、交流を深めることに重点を置きました。新たにホームステイを取り入れて、遠くの親戚宅にきた気分で寝食を共にし、語り合うことが出来ました。ホームステイをお受け頂いたホストファミリーの皆さまには、大変お世話になりました。1日の時間が過ぎ、別れを惜しむステイ先の子どもさんと福島からの子どもさんの姿を見て、本当に嬉しく思いました。また、福島の様子を聞かせていただいたり、三次組などが関わってきた支援活動についても様々な角度から語り合うことが出来ました。物資のお届けだけでなく、直接顔を合わせて言葉を交わすことで心と心がより深く繋がり、明日の歩みを支えるお互いの絆になったのではないかと思います。

また3日目の出来事です。子どもたちが予定時間がすぎても、カヌー体験場所から帰ってこないの